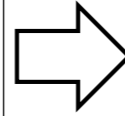


D 居住環境の改善を含む世代間交流施設

平成27年12月11日

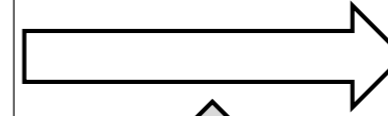
若者にとっての商店街の現状（評価・問題点・課題）

- 学生向けアパートは多いものの、家賃の負担が大きく生活費を考えるとアルバイトが必須になっている。
- 地域の空家は目立つが、空家活用の具体化は無い。
- 周辺住宅地の単独高齢者世帯や高齢者世帯が増えているようだが、住宅の維持管理も大変なようだ。
- サービス付高齢者住宅や学生寮などの集合住宅とシェアハウスのような施設で街なか居住を目指す。



より良い商店街のために何が必要か？（コンセプト・視点）

- 若者、高齢者共に街なか居住人口増を目指すことで地域商店街の購買力を高めることになる。
- 単身高齢者のニーズを若者の力で解決するとか、子育て世代のニーズを高齢者が担うといった世代間交流を図ることによって、より住みやすく暮らしやすい地域という評価が高まる。



魅力ある商店街への提案とその効果想定

（こうやったら、こう変わる！）

魅力ある商店街のための具体的提案

具体的提案内容（事業内容、スケジュール）

☆平成25年度北区まちなか賑わい創出事業「葛塚中心部まちづくり構想」を参考にして、現在の区役所本館跡地の利用方法の中で再検討する。

- | | |
|----------------------|--------------------|
| • サービス付き高齢者住宅 | • 若年用シェアハウス |
| • 温浴施設等市民向け集客施設 | • 地場産食材利用レストラン |
| • 街なか拠点ビジネスのプラットフォーム | • 地域包括支援拠点 |
| • 地域母子子育て支援施設 | • サテライトキャンパス等学びの施設 |

☆市街地及び住宅地の空家利用による学生用シェアハウス運営事業
周辺住宅地の元気高齢者を中心部のサービス付き高齢者住宅に集め、住んでいた住宅をシェアハウスに改装し、学生が低家賃で居住する。家主は家賃で固定資産税や住宅の家賃をまかなう。近隣住民によって居住学生に対する食事や掃除等の管理を行う。また、学生が居ない昼間時は近隣高齢者の茶の間として活用もできる。

事業主体

運営体制（人材確保）

運営体制（運営費・当初費用、負担割合）

実現のための課題